

注意される。にくらしい!!」

他者への批難を憎悪をこめた表情で話していたが、回を重ねるごとに悪口は少なくなってきた。

• 運動療法

バドミントンを1対1で実施した。始めは、ラケットをめちゃくちゃに振り回して一人で興奮していたが、徐々に落ち着いてきた。その後、ルールを定め、試合をした。負けると感情的になり、ルールを無視することがあったが、次第にルールを守り熱心に練習するようになった。

(3) 親子関係の調和をはかる

• 交流分析

(母親から本人への話し方の改善)

今までは

本人「ただいま、ハラヘッタなー!」

母親「何よ!!今ごろ帰ってきて!!」

本人「ウルセー、このババー!!」

このような事から、いつも言い争いになっている。そのため、まず、保護的な親の自我状態で対応するように勧めた。

例えば

本人「ただいま、ハラヘッタなー」

母親「おかえりなさい。はいはい、今おいしいものを用意してあげましょう。」

このような対応を続けていくうち、本人から、母親に話しかけてくるようになり、笑顔を見せるようになってきた。

• カウンセリング

(両親の本人に対する見方の改善)

父「あんまり、期待し過ぎていました。かわいそうなのは、あいつですね。自分も仕事、仕事といって、すべて、母親まかせにしていたのが悪かったのかも知れません。」

母「最近、かわいくなりました。あんまり口やかましいと、いやになるのは、当たり前ですね。」

(4) 学校関係との調和をはかる

学校とは、本人の問題行動について、共通理解をはかった。

次第に担任との会話にも抵抗を示さなくなってきた。

(5) 将来について考えさせる

• カウンセリング(8回目~12回目)

「退学を勧められたが、卒業だけはしたい」

「今年、進級できなかったら、休学してでも来年がんばりたい。」

「将来は、自動車関係の仕事をしたい。」

「家は離れたくない。家はいいよ。」

「おやじは、最近、仕事が忙がしく、毎日遅いんだ。大変だと思うよ。公務員は安月給でね。」

「俺は、人に使われるのが嫌いだから、将来は自分の店を持ちたいよ。」

8. 考察

1ヶ月後に、身体症状が軽減した。以前からの交友関係はまだ続いているが、帰宅時間は早くなった。

親子関係が良い方向に向かい、両親との会話も増えてきたし、学級担任にも心を開き始めてきた。

将来については、ばくぜんとであるが、方向が見え始めてきたし、卒業への意欲も持ってきた。

また、遅刻、早退、欠席が少なくなってきたおり、バイク窃盗に類する行為は見られない。

まだ、問題行動全部が改善された状態ではなく親子関係、学校関係も十分良いとは言えない。そのため、今後、さらに、同様な方針で援助して行く必要があると考える。